自然共生都市づくり

【目指す都市の姿】

豊かな自然環境や生物多様性が大切にされ、その恵みが持続的に活かされるまち

【施策の方向】

- ●豊かな自然環境と多様な生きものを守る
- ●恵み豊かな里地里山を活性化させる
- ●グリーンインフラをまちづくりに活かす
- ●自然や生きものへの愛着をはぐくむ

【関連するSDGs】



本市の現況

本市は、西部に奥羽山脈の山々が南北に連なっており、山地に連続した青葉山などの丘陵が東走しています。また、七北田川、広瀬川、名取川が山地や丘陵地を分断しながら東流し、太平洋に注いでいます。これら3河川の堆積によって形成された平野が丘陵地の東側に広がり、七北田川河口には蒲生干潟、名取川河口には井土浦の干潟があります。

また、市域が奥羽山脈から太平洋岸までの広がりを持つことや、冷温帯と温暖帯の間に位置する中間温帯と呼ばれる領域が丘陵地の広い面積を占めていることから、多様な動植物が生息・生育しており、大都市としては稀に見る豊かな生態系が形成されています。



▲市の鳥 カッコウ

令和7年度に実施した主な取り組み

■自然環境の保全

仙台市内には、「県立自然公園条例」による県立自然公園や「杜の都の環境をつくる条例」による保存緑地などの環境保全地域等があり、これらの地域等においては、自然環境に影響を及ぼすおそれのある行為について、許可や届出を要するなど、一定の規制がかけられています。

本市では、環境影響評価制度や土地利用規制等を適切に運用し、開発事業等の影響を低減することにより、自然環境の保全に努めており、市街地周辺においても多種多様な生き物を見ることができます。

■生物多様性の保全とネイチャーポジティブの推進

市民一人ひとりが生物多様性に対する理解と関心を深め、生きものとその生息環境の保全等に向けた取り組みを推進しています。

令和7年度は、多様な主体の協働によるネイチャーポジティブ実現などを目指し「杜の都ネイチャーポジティブセンター」を立ち上げました。このほか、令和5年度から、国の「自然共生サイト」認定制度を活用した生物多様性の保全促進に向けた取り組みを開始し、令和7年度にも本市が支援をした民有地等4か所で認定を取得しました。

平成29年度から継続している生きもの観察会は、令和7年度も市民・NPO・企業等の様々な主体と連携しながら、カジカガエルや、震災から復興したビオトープ田んぼのメダカなど、本市に関わりの深い生きものに着目して実施しました。



▲観察会の様子

■野生動物との適切な関係

人と野生動物との適正な関係を保つため、市のホームページやチラシなどで、野生動物を引き寄せないための環境づくりの周知啓発を行っているほか、被害等の状況に応じて、捕獲等を行っています。特にツキノワグマについては、人身被害を未然に防止するため、啓発講座やパネル展示など、クマに出合わないための広報の強化に努めています。また出没情報が寄せられた際には、周辺の学校や保育所・町内会等への迅速な注意喚起や、出没情報の発信、専門業者による誘引物等に関する現地調査を実施するほか、クマが住宅地に留まるなど特に危険な場合には、市で銃猟の実施判断ができる緊急銃猟および県から移譲を受けた緊急捕獲許可権限により対応しています。

さらに、令和7年10月以降のツキノワグマ出没増加を受け、市民の安全確保のための対策を「仙台市ツキノワグマ被害防止対策パッケージ」としてとりまとめ、全庁連携のもと総合的な対策の強化を進めていきます。

■広瀬川創生プラン

杜の都のシンボルである広瀬川の保全と新しい魅力の創出を図るため、「広瀬川創生プラン」に基づき、市民協働による取り組みを進めています。

令和7年度は、広瀬川に架かる大橋周辺にて、インストラクターの指導のもと小学生を対象に川の生き物探しや安全講習、カヌー体験を行う「広瀬川自然体験学習」を開催しました。また、100万都市仙台の1%・1万人をキーワードとして、市民・企業・行政などで実行委員会をつくり活動を展開している「広瀬川1万人プロジェクト」の取り組みとして、4月と11月に「河川・海岸一斉清掃」を実施しています。



▲広瀬川自然体験学習（カヌー体験）

■百年の杜づくり

「百年の杜づくり」とは、伝統ある「杜の都」の風土を生かし、市民・市民活動団体・事業者・行政が協働して、百年という時を味方に、「みどりと共生する都市」を創造し、未来へ継承していく取り組みです。

令和3年6月に「仙台市みどりの基本計画2021-2030」を策定し、基本理念である『百年の杜づくりで実現する新たな杜の都　～みどりを育むひと、みどりが育むまち～』に基づき、これまで取り組んできた「百年の杜づくり」を継承するとともに、培ってきたみどりの多様な機能をまちづくりに積極的に活用することとしています。



▲杜の都・仙台を象徴する、
定禅寺通のケヤキ並木

市民や事業者、地域の団体等を対象に、花壇づくり助成など様々な緑化助成事業を行っているほか、「百年の杜づくり」を市民へPRするとともに、みどりに対する愛着や関心を深め、みどりを育む意識を高めるため、新緑祭や植木市等のみどりに関するイベントの開催や顕彰などを実施しています。また、市民活動団体の活動内容やイベントを紹介する情報誌「せんだい百杜通信」を定期刊行しています。

■農地の保全と環境にやさしい農業の推進

農地は、多彩な農産物を市民に供給するだけでなく、水源の涵養など自然環境の面から国土を保全する役割も担っています。また、“農”とのふれあいを通じ環境教育や地域交流を促す緑豊かな空間として、市民生活に潤いとやすらぎを与えています。本市では、農地の保全と維持を行うとともに、地産地消や環境にやさしい生産方式による農業などを推進しています。

仙台産農産物に興味を持ってもらい、消費をさらに拡大するため、仙台産農産物の魅力を発信する事業「とれたて仙台」を実施しています。公式WebサイトやInstagramを開設し、生産者インタビュー、レシピ、直売イベントや飲食店などの情報を発信しています。

とれたて仙台
仙台の大地の贈り物